

# 国土交通省版・景観シミュレーション・システムの概要

## 主な表示機能

- ・画像の視点を解析し、三次元モデルを前景画像と背景画像の間に合成表示する。
- ・三次元モデルを任意視点から透視図として表示する。
- ・テクスチャ、シェーディング、ワイヤーフレームの表示モードで表示する。
- ・平面図、立面図（東・西・南・北）の表示を行う。
- ・緯度経度季節時刻から光源を自動設定する。
- ・表示画像を画像ファイルとして保存する。またプリンタに出力する。
- ・移動経路を設定し、アニメーションを表示する。これを.avi形式の動画として保存する。
- ・地形や市街地の中に存在する設計対象物に関して、可視範囲を解析する。
- ・築後年数を指定し、経年変化を表示する。
- ・立体表示ができるディスプレイ、プロジェクタに対してステレオ表示を行う。
- ・指定したオブジェクト、全地物の影の表示を行う。
- ・各種条件による表示をシーンとして記録し、LSS-S形式でファイル保存する。

## 主なモデリング機能

- ・任意の平面図形を点列から生成する。
- ・既存の平面図形に穴をあける。
- ・平面図形に高さを与えて立体を生成する。
- ・断面群または断面と折れ線から掃引体を生成する。
- ・道路・河川の断面形状と中心線軌跡から立体形状を生成する。
- ・外部関数を用いて基本的な原始図形をパラメトリックに生成する。
- ・ユーザー定義による外部関数で、パラメトリックな応用図形を生成する。
- ・データベースに登録された三次元図形（点景など）を配置する（単体・リニア・エリア）。
- ・面・立体・同色面に対して、カラー、テクスチャ、マテリアルの設定を行う。
- ・コンバータにより、数値地図、ステレオ空中写真解析結果、既存GISデータ等から地形、周辺市街地を作成する。また、電子納品成果、CADデータ等を利用する。
- ・地形を加工する（図形演算による切断、法面生成等）。

## 連携機能その他

- ・景観データベースにより既存データを登録・検索・利用する。
- ・市街地生成結果を動的に表示する。
- ・WEBブラウザと連携し、ネットワーク上にある三次元データを取得して表示する。
- ・外部関数、およびプラグインDLLにより、機能を追加する。
- ・メニュー、ダイアログ、ヘルプ、メッセージに用いる言語を動的に切り替える。
- ・ユーザーが追記可能なヘルプ等、プログラムの変更無しに新たな言語に翻訳移植する。